

# 人と自然がつながる里山

問合先 環境課

市内には、浅間山、鳩吹山などの山があり、ふるさとの川可児川が久々利川、横市川、矢戸川などと合流し、木曾川へ流れ込んでいます。そして、森や川の流れに沿って、田んぼや畑が広がる里山の風景が見られます。

そんな緑に囲まれた私たちのまちには、希少な植物がたくさんあり、この豊かな生態系に恵まれた可児の自然は、次の世代に引き継ぐべき大切な財産です。

## 久々利が生んだ里山博士 — 加藤新市 —

市内の里山で、とても珍しい「サクライソウ」を発見した久々利出身の博物学者 加藤新市。明治から大正期の可児の山々を歩き、さまざまな植物のスケッチ画を残しています。



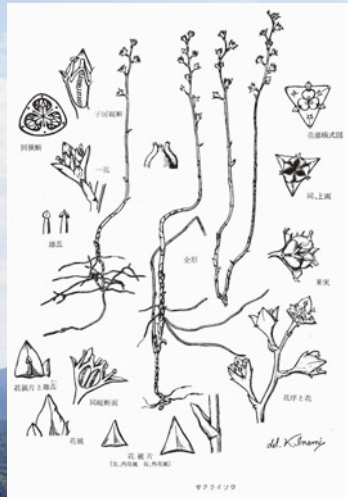
加藤新市 1885-1948  
(加藤修滋氏所蔵)

明治18年4月 可児郡久々利村にて出生  
 32年3月 久々利尋常高等小学校卒業  
 38年7月 岐阜県師範学校卒業  
 41年4月 可児郡羽崎尋常小学校・平牧尋常小学校に勤務  
 大正2年10月 久々利にてサクライソウの自生地を発見  
 大正9年 福井県、愛知県で勤務  
 昭和20年 可児郡久々利村にて死去  
 昭和23年3月

## 加藤新市人物像

本業は教師で、羽崎と平牧の尋常小学校に15年間勤務しました。その間、郷土の里山でサクライソウを発見したことは、可児の植物史に残る成果となりました。

大変博識な人で、全国レベルの研究者とも交流があり、牧野富太郎（植物学）や南方熊楠（民俗学）との間で交わした書簡が残っています。植物のみならず、分野を超えて地質や化石の研究にも力を注いだ郷土が誇る博物学者です。



サクライソウのスケッチ

## 研究だけじゃない！生徒に愛された「ジャナさん」

○研究一辺倒の人ではなく、生徒から慕われる教育者という一面もありました。没後には、教え子有志や関係者が思い出をつづつた『追憶 加藤新市先生』という書籍も作られています。

○教え子のつけたニックネームは「ジャナさん」。独特のポーズから繰り出される口癖「ジャナ」は、そのまま彼の愛称となりました。授業中に「ジャナ」が出ると、教室には笑いが起こり、「ジャナ」の回数を数えて楽しむ生徒もいたそうです。



## 加藤新市の遺品

愛用した顕微鏡や、著名な植物学者である牧野富太郎のサイン入り植物図鑑は、可児郷土歴史館に展示されています。



## サクライソウ

花期は7～8月。菌類から栄養を奪って生きる菌従属栄養植物で光合成をしない。本体は地下にあるが、高さ10～15センチでクリーム色の花茎が花期のみ地上に現れる。全国でも自生地は限られ絶滅が危惧されており、久々利のサクライソウ自生地のみが国の天然記念物に指定されている。

## 市内の指定天然記念物 (抜粋 令和2年10月時点)

指定	文化財の指定名	指定理由	環境省レッドリスト
国	久々利のサクライソウ自生地	極めて局地的に分布する希少種	絶滅危惧ⅠB類
市	ヒトツバタゴ・ヒトツバタゴ自生地	東海地方に限られ分布する希少種	絶滅危惧Ⅱ類
市	ハナノキ自生地	東海地方に限られ分布する希少種	絶滅危惧Ⅱ類
市	ミカワバイケイソウ自生地	氷河期の寒冷地性遺存植物	絶滅危惧Ⅱ類
市	鳩吹山のシデコブシ自生地	東海地方に限られ分布する希少種	準絶滅危惧

背景 我田の大岩から望む里山